

臨 牀 講 義

「フィラリア」病股腫 Femoralbubo des Filariasis

教授 醫學博士 磯部喜右衛門 講述

助手 醫學士 鬼 東 惇 哉 筆記

患者 柚○時○ 男子 31歳 職業ハ紡績ノ職工デアル。

主訴 ハ時々起ル右鼠蹊部ノ無痛性ノ膨隆。

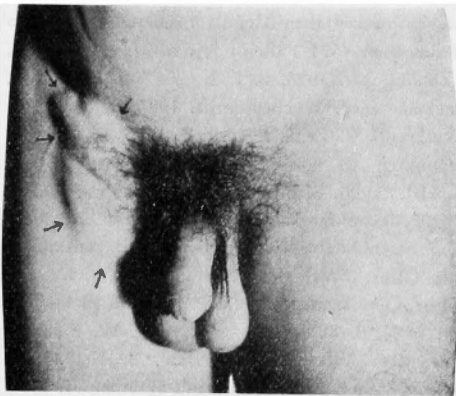
遺傳歴 ニハ別ニトリタテ述ベル程ノモノハナイ。

既往症 トシテハ23歳ノ時、急性蟲様突起炎ヲ患ヒ、手術ヲ受ケタ事ガアル。其他ニハ著患ヲ知ラズ、健康デアツタ。脊部發疹、鼠蹊部横痃、脱毛、音聲嘶啞等ヲ來シタ事ハナイ。

現病歴 約5—6年前カラ右側鼠蹊部ニ時々無痛性ノ膨隆ガ現レル。之ハ壓ヘルトスグナクナルノヲ常トシテキタ。所ガ3年前カラ膨隆ノ出方ガ増シテ、立位デハ常ニ存在スルヤウニナツタ而モキバツタリスルト其ノ大サヲ増シ、右大腿ニ倦怠感ガアル。又其際ニ、時トシテ、惡寒戰慄ヲ伴ヒ39.5°C位迄發熱スル事ガアル。又時ニハ下腹部ニ痙痛ヲ來シ嘔吐シタコトモアル。更ニ又、腰痛ガアツテ、シャント腰ヲ延バシテ歩ケヌコトモアル。之等ノ症候ハ臥床スルト治ル。

局處ヲ視ルト、右鼠蹊部デ、丁度スカルバ氏三角 *Trigonum Scarpa* ヲ中心トシテプーバルト氏靱帶 *Ligamentum inguinale (Poupartii)* ヨリハ下デ、廣サ略々手掌大ニ涉リ一帯ニ膨レテ居ル。

第 1 圖



矢印ハ膨隆ノ輪廓ヲ示ス。
(前面、少シク左斜ヨリ撮影セリ。)

(寫眞第1圖參照)。表面ハ裂片狀 lappig デ其部ノ皮膚ニハ發赤、靜脈怒張等ハナク、又搏動運動モ認メラレナイ。觸ツテミルト、局處ノ皮膚ニハ溫度上昇、或ハ浮腫等ハ無ク、此ノ膨隆ハ柔クテ、何處ヲ壓ヘテモ疼痛ヲ訴ヘズ、緩リ壓ヘルト相當壓縮性ガアツテ膨隆ノ大部分ハ消腿スル。波動ハ認メラレナイ。ヨク觸ツテ見ルト此ノ膨隆ノ内ニクリクリシタ結節ガアル。弾力性鞏 *elastisch derb* デアル。次ニ患者ヲ起立サセテ腹壓ヲ暫時加ヘサセタ位デハ一向ニコレ以上大キクハナラナイ。打診ヲ試ミルト凡テ全ク濁音ヲ發シル。

扱、此ノスカルバ氏三角部ニ來ス膨隆デ、最も日常的ナノハ

淋巴腺炎デアル、其際此ノ部ノ淋巴腺ガ所屬スルノハ生殖器系デハ無ク、又陰囊デモナク、即チ下肢ノ淋巴系デアル。此ノ患者ニ就テ視ルト既往症ニハ淋巴腺ノ炎症ヲ來スト思ハレル様ナモノハ無カツタ、又現症ニモ其ノ様ナ事ハ1ツモ無イ。慢性淋巴腺炎ト共ニ淋巴腺ノ

悪性腫瘍等ヲモ否定フルノガ先ニ證明シタ壓縮性 Kompressibilität ノ存在デアル。

壓縮性ノアルコトヨリ先ヅ考ヘラレルベキハ「ヘルニア」症デアル。鼠蹊韌帶下デアルカラ、勿論、

股「ヘルニア」症 Hernia cruralis ヲ考ヘテ見ルノデアル。

恥骨水平枝ト鼠蹊韌帶トノ間ニハ筋裂口 Lacuna muscularis ト血管裂口 Lacuna vascularis トガアツテ、コノ血管裂口ノ側方部ヲ股動脈、股靜脈ガ走ツテキル。ソレデ血管裂口ノ内方部ニハ何ガアルカトイフト、ローゼンミュレル Rosenmüller 氏腺ノ他ニ、陳鬆ナ脂肪織ノツマツテキルダケノ腔ガアツテ、腹壁ノ内方カラミルトコノ部ハ腹壁横筋膜 Fascia transversalis abdominis ガ覆ツテキルノミデアル。之ヲ通常股中隔 Septum femorale トイフガ、非常ニ抵抗ガ弱ク、腹壓ニ依ツテ腹膜ガ此處ハ脱出シ易イ。女子デハ骨盤ガ大キク、從ツテ血管裂口ガ大キク、股中隔モ廣イカラ、股「ヘルニア」症ハ男子ヨリモ女子ニ多イモノデアル。老人デ結締織ノ弛ンダ、殊ニ若い時ニハ肥滿シテキタガ齡ヲトツテカラ比較的瘦セタトイフ様ナ人ニ多クテ、普通ハ老齡ノ婦人ニ來ル疾患デ、此ノ人ノヤウナ若い男子ニハ稀デアル。

コノ患者ノ膨隆ハ柔クテ腸ノ形ヲシテ居ナイ。外觀裂片狀デアルカラ「ヘルニア」ダトスレバ大網膜「ヘルニア」Epiplocele デアラウ。即チ大網膜ハ「ヘルニア」嚢内デハ、腹腔内ニ於ケル如クニハ展開セズシテ、多クハ團塊狀或ハ索狀トナルモノデアルガ、「ヘルニア」嚢ト癒着シ易ク、腹壓ダトカ起立ダトカデ容易ニ大キクナルモノデハ無イ。次ニ考ヘラレルノハ

流注膿瘍 Senkungsabszess デアル。腰痛ガアルカラ、脊柱ニ結核性脊椎炎デモアツテ之ガ腸骨窩 Fossa iliaca ヲ經テ此處ニ流注シタモノトシテモヨイガ、ソレダトスレバ、スカルバ氏三角部ダケデハナク鼠蹊韌帶ノ上ニモ何か變化ヲ證明サレル筈デ、又膨隆ニ今少シ波動ガアツテ然ルベキデアル。今脊柱ニ原發竈ヲ探シテミテモ、龜脊、陷凹等ハ勿論、何等ノ運動障礙、叩痛點モ認メラレナイ。

スルト之ハ淋巴腺ニ、炎衝デハナクシテ、何か機械的の障礙デ腫脹ガ起ツタモノトシテハドウデアロウカ。即チ淋巴管ヲ何かガ栓塞シタラバ如何デアロウカ。途端ニ考ヘラレルノガ

「フィラリア」病デアル。

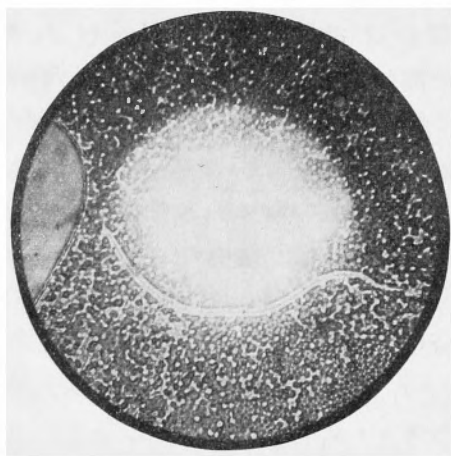
ソコデヨク尋ネテミルト、此ノ患者ハ今京都ニ住ンデ居ルガ23歳頃迄ハ郷里ノ鹿兒島縣薩摩郡デ暮シテ居タ。此ノ邊ハ「フィラリア」病ガ地方病のニ蔓延シテキルノデ有名ナ場所デアル。

「フィラリア」病 Filariasis ノ病原體ハバンクロフト氏絲狀蟲 *Filaria Bancrofti* (*Filaria sanguinis hominis*) デアル。之ハ乳糜尿 Chylurie、象皮腫 Elephantiasis 等ノ1原因トシテ外科的ニ興

味ガアルモノデ、本邦各地ニ有ルガ殊ニ南九州ニ多イ。Culex 又ハ Anopheles ノ刺創ニ依ツテ傳染スル。從ツテ都會ニハ少ク都會人デ之ヲ發見シテモ此ノ人ノヤウニソレラノ地方カラ來タ人カ、サモナケレバサウイウ處ヘ旅行スル人ニ限ルモノデアル。コノ Culex 又ハ Anopheles ノ體內デ發育シタ病原幼蟲ガ咬創カラ人間ノ淋巴流ニ入ツテ深部ノ淋巴管又ハ淋巴腺中ニ棲息スル。殊ニ精系、睪丸周圍ノ淋巴管或ハ鼠蹊部ノ淋巴節中ニ潜在シテ、之ニ伴ツテ淋巴腺腫脹、皮膚結締組織ノ増殖等ヲ惹起シテ象皮腫ヲ來スモノデアル。斯クシテ最初侵入シタ幼蟲ガ發育シテ母蟲トナリ、コノ母蟲カラ出タ仔蟲ガ淋巴管ヲ經テ血中ニ入ツテ、全身ノ血液中ニ夥ク存在スルモノデアルガ、唯皮膚血管内デハ、患者ガヨク睡眠シタ夜中ニノミ見出サレル。ソレデ此ノ仔蟲ハ一名夜間小絲狀蟲 *Microfilaria nocturna* ト稱セラレルノデアル。

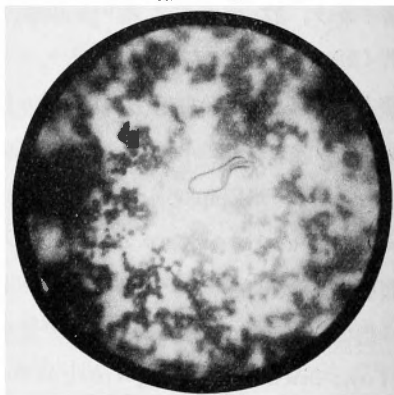
此ノ患者ニ夜間水蛭 *Hirudo medicinale* ヲ貼ツテ、患者ノ血液ヲ吸取ラセテ、ソノ血液ヲ塗抹シタノガ此處ニ在ル顯微鏡標本デアル。1 ツ(寫眞第2圖參照)ハ新鮮血液デ所謂厚滴標本 *Dicke Tropfen-praeeparat* デアツテ、強擴大デ視ルト、蟲體ハ0.3mm位ノ恰モ絲ノハシクレノヤ

第 2 圖



新鮮標本(網ノ如ク白ク光レルハ赤血球ナリ)

第 3 圖



固定染色標本(黑點ハ赤血球)

ウナモノデ、鈍圓ナ一端ガ頭デ、尖ツタ方ガ尻尾デアル。赤血球ノ間ヲ縫フガ如ク活潑ニ蛇行運動ヲヤツテ居ル。此ノ夜間小絲狀蟲ガ見附カツタ限リニハ、此ノ患者ニ確實ニ「フィラリア」病ナル診斷ガ下シ得ラレル。今1ツノ標本(寫眞第3圖參照)ニハ ギームザ *Giemsa* 氏染色ヲシテアルノデ仔蟲體ハ紫青色ニ見エル。太サハ丁度赤血球位デ、前者ノヤウニスラリトシテキズニ折レ曲ツタ格好ヲ探リ、尙、尾端ニ淡青色ニ染ツタ冠ノ縷ノ様ナモノガ見エル。之ハ蟲體ガ收縮シタタメニ被膜ガハツキリシテ來タノデアル。

サテ仔蟲ハ人ノ體內デハ之以上ニハ發育シナイ。蚊ガ若シモ患者ノ血液ヲ仔蟲ト一緒ニ吸引スルト、仔蟲ハ蚊ノ體內デ始メテ發育シテ幼蟲トナリ、之ガ刺吻ヲ經テ排泄セラレル譯デアル。從ツテ本病ガ前ニモ述べタヤウニ地方病的ニ傳播スルノデアル。

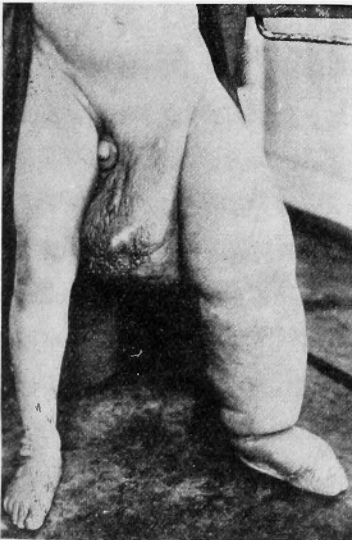
コレカラ此ノ患者ニ就テ、ソノ1ヵ月ノ症状ヲ吟味シテミル。

第1ニ此ノ患者デ見受ケタノハ股部横痃 Femoralbubo デアル。〔フィラリア〕ガ淋巴腺ニ來テ、機械的ニ或ハ炎症ヲ起スコトニ依ツテ、淋巴行ヲ閉塞スルト持続性ノ淋巴鬱積ガ起リ腺腔ガ擴大シ、後ニハ淋巴腺肥大ヲ起ス。即チ或ハ鼠蹊部横痃 Inguinalbubo トナリ或ハ此ノ患者ニ見ルガ如ク股部横痃トシテ現レルノデアル。

淋巴鬱滯デアルトイフカラニハ、一寸ヘルニアニ似テ壓縮性ノ存在スルコトハ當然デアリ、又起立等ヲ續ケルコトニ依ツテ膨隆ノ度ヲ増スノモ不思議デハ無イ。

第2ハ右大腿ノ倦怠感デアル。之モ淋巴鬱滯デ直ニ理解出來ル。此ノ度が強クナルト皮膚及皮下組織ガ肥大シテ、遂ニハ所謂象皮腫トナル。象皮腫ハ主ニ下肢及ビ陰囊、陰唇等ニ來ルモノデ、甚ダシイ場合ハ陰囊ガ大地ニ接スルニ至ルトイフヤウナ事モアル。今御廻シタ寫眞ハ4年前入院手術ヲシタ症例デアツテ(寫眞第4圖参照)、ソレ程大キクハナイガ、患者ハ陰囊ガ

第 4 圖



清○玄○ 85歳

昭和4年5月20日入院 象皮腫

重イノデ風呂敷デ包ンデ首カラブラ下ゲテ居タ。

第3ハ時トシテ 39.5℃位迄發熱スルトイフ事デアル。之ハ〔フィラリア〕病ニ固有ナモノデアツテ、〔フィラリア〕發作 Filariaanfall 又ハ發熱發作 Fieberanfall ト謂ハレテキル。突發的ニ惡寒戰慄デ高熱ヲ發シ發汗シテ下熱スル。此ノ發作ハ偶然起ルコトモアルガ大抵ハ肉體的激動脂肪過食等ノ後ニ起ルトイハレテキル。之ハ淋巴鬱滯ニ依ツテ抵抗ノ弱マツタ場所ヘ丁度丹毒ノヤウニ連鎖狀球菌ガ入ツテ起ルモノダトイフ説ガアル。比較的初期ニ起ル。

第4ハ下腹部ニ來ル痼痛様ノ疼痛デアル。〔フィラリア〕病デ乳糜尿カ往々出ルガ、此際乳糜ガ輸尿管又ハ腎盂ヲ閉塞スルト腎痼痛ノ症状ガ現レル。所ガ此ノ患者デハ乳糜尿ノ〔アナムネーゼ〕ハ全クナク、入院後檢ベテモ尿ハ清澄デ、赤血球、白赤球、纖維素、或ハ脂肪球ノ如

キヲ證明出來ナイ。デアルカラ、此ノ嘔吐ヲ伴ヘル疼痛發作ハ、此際〔フィラリア〕病ノ症状ノ1ツトハ見ナイデ、此ノ人が23歳ノ時ニ罹ツタ急性蟲様突起炎ニ依ル癒着障礙、或ハ其手術後ノ癒着症状トスル方が穩當デアル。シカシ之ハレントゲン検査等デ確メネバ斷言出來ナイ。

此ノ患者ハ股部横痃ヲ主訴トシテ外來ニ來タガ、一般ニハ〔フィラリア〕病デハ乳糜尿、血乳糜尿等ノ症状デ醫療ヲ乞フモノデアル。牛乳白色ノ尿が出テ、或ハ之ニ血尿ヲ伴ツテ、又往々乳糜ガ凝固シテ尿ガ凝塊トナリ尿道ヲ塞イデ排尿障礙ヲモツテクルコトガアル。尿閉ガアツテ〔ウドン〕ノヤウナモノガ尿道カラ出ルト共ニ、容易ニ排尿シ得ルヤウニナル、トイフヤウナ

「アナムネーゼ」ガアレバ先ヅ本病ヲ考ヘテ殆ンド大過ハナイ。

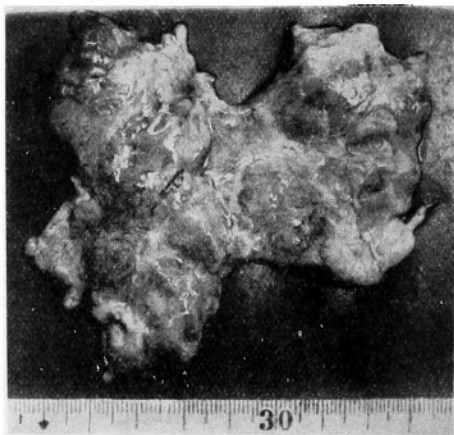
サテ、此ノ患者ノ股部横痃ハ、此ノ儘デハ段々大キクナリ、淋巴ノ鬱滯ハ宜イ培养基ノ存在トナツテ小サイ損傷カラモ容易ニ傳染ヲ受ケル危險ガアルカラ、只今カラ剔出手術ヲ行フ。剔出シタ淋巴腺中ニ若シモ母蟲ガ居テ、ソレガ此ノ患者ノ「フィラリア」母蟲ノ唯一ノ巢デアツタ時ニハ、血中ニ出ル *Mikrofilaria* ハ之以上増エナクナル譯デアル。他ノ何如ナル處置ヲ試ミテモ病氣ノ治癒ハ先ヅ望マレス。

本病ハ時ニハ重篤ナ一般症狀即チ貧血、癯瘦等デ死ヌ事モアルガ、捨テ、オイテモ大體生命ニハ別狀ナイモノデアル（昭和 8 年 10 月 9 日講義）。

後記 講義後直ニ剔出手術ヲ行ツタガ、腫大セル淋巴腺群ハ周圍組織ト緊ク密着シ、且一見血管腫様ノ外觀ヲ呈シテキタ。手術中ニ多少ノ出血ヲ認メタ。股「ヘルニア」、流注膿瘍等ノ存在ハ認メナイ。

剔出シテミルト股腫（寫眞第 5 圖參照）ハ剔出前ニ比シ著シクソノ容積ヲ減ジ萎縮シテシマツタ。切片ヲ作り顯微鏡検査ヲシタ所、淋巴腺ノ中心部デハ淋巴腺腔ガ著明ニ擴大シテ居リ、加之、周邊部ニ於テハ血管ガ海綿様ニ増殖及ビ擴張シテ居ルノヲ認メタ。斯ル變化ガ本患者ニ「ヘルニア」様症狀ヲ普通ヨリ著シカラシメテキタノデアラウ。尙剔出物ヲ生理的食鹽水中デ丹念ニ細裂シ検査シタガ遂ニ母蟲ヲ發見シ得ナカツタ。

第 5 圖



剔出標本